



第3回 学校運営協議会 11月9日（月）午後1時30分～午後4時 校長室にて

- 内容 ①学校運営協議会活動7か月間を振り返って
 ②教育評価アンケートについて
 ③教職員任用について
 ④その他（寺子屋はぎま、コミュニティカレンダー等）

<出席者>学校運営協議会委員（校長、CSディレクターを含む）、
 教頭、教育委員会（教育コーディネーター）



コミュニティ・スクールを立ち上げて7か月、学校の評価の項目の中に、①萩間小学校がコミュニティ・スクールの取組を知っているか。②CSディレクター坪池さんの配置について③コミュニティルーム「ちょっくら」の設置について④寺子屋「はぎま」の開室について⑤学校運営協議会の設置についてがありました。その中のCSディレクターの配置では、先生方から「担任だけでは実現できなかったことが実現できた。」等、学校支援本部としての機能の充実が感じられるコメントが多くありました。また、学校運営協議会で運営されている「寺子屋はぎま」に関して、子どもたちの学びの支援を喜ぶコメントがありました。「寺子屋はぎま」に関しては、開室の拡大を求める声、長期休業中に萩間公民館での開室の提案、さらには、学校運営協議会のメンバーだけでなく、大学生、さらには地域の高校生や中学生にも声をかけたいといった話にも広がりました。

続いて、司会の坪池CSディレクターから、「萩間小の教育を推進するために、どんな先生がいてくれれば？といったご意見はありますか」と投げかけられ、委員から、「来年も、今の先生方でいいねえ」と声が聞こえてきました。その声に校長から、「本当に、職員は萩間小が好きです。」と。さらに、「誰が来ても、私らと一緒に活動すれば萩間小が好きになっちゃうよ」と続けました。その言葉に委員の方々も笑顔でうなずいていました。地域の学校になっているなあとうれしくなりました。地域に支えられる。地域とともに子どもたちを育てる。コミュニティ・スクールの目指すところが見え隠れしていました。こうして、子どもたちには、「地域が好き」という郷土愛が育まれるのだと思います。（地域の方々が、笑顔で自分たちの体験活動に関わったり、見守ってくれたりしている。そこに「萩間が好き」という郷土愛が育まれる。郷土愛は、郷土の自然だけでなく、地域の人との温かな関わりがあってこそ育まれるもの。この郷土愛は、先生方だけでは育めない。ここに、コミュニティ・スクールを設置する意義を実感しました。）



CS立ち上げに向けて、踏み出しました！

11月2日より、来年度立ち上げに向け、牧之原小中、川崎小学校に、CSディレクターさんが勤務し始めています。

<牧小・中学校 CS ディレクター>

牧之原小学校と牧之原中学校は、『学びと育ちをつなぐ小中連携事業』を推進しており、すでに、評議員会も合同で実施しています。もちろん、コミュニティ・スクールも小中合同で立ち上げます。その小・中のCSコーディネーターを牧之原にお住いの立花優子さんが引き受けてくれました。とっても明るく、訪問したときには、牧中生の保育体験授業に参加してくれていました。

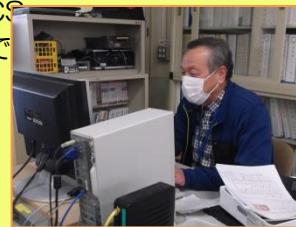
既に、「ゆうこりん」と、校長先生も呼んでいるようで学校職員にも、生徒にもなじんでおりびっくり！



<川崎小学校 CS ディレクター>

川崎小学校のCSディレクターさんは、パソコンが堪能な村上和秋さんがおこなってくれます。

訪問したときにはすでに、川崎小学校のホームページの更新をおこなってくれていました。はりはら塾、田沼塾でもパソコンを御指導しています。このはりはら塾つながりで、勝間田小のスズッキーともお知り合いの様で、勝小を訪問し、CSディレクターのことを学んでくれています。こんなつながりいいですね。CSディレクターのネットワーク作りましょう！



コミュニティルーム製作中（牧小）



前々回のCS通信で川崎小学校が、和室を直してコミュニティルームにしつつあることお知らせしました。牧之原小中学校でも、コミュニティ・スクール立ち上げに向け牧之原小学校の集会室を区切って、コミュニティルームをつくりました。

ここに、子どもたちに関わる地域の方々が集う姿をイメージするだけで、私はわくわくしてきます。

